



# ガハテ村通信

篠山ナマステ会 事務局 〒669-2221 篠山市西古佐921 振替口座 00930-6-29629



教育環境支援としてカバンや文房具を提供しました。(ラダ・クリシュナ小中学校)



セティディビ小学校には、文房具のほか制服を支援しました。

## 特集

### ネパール大地震支援報告

人々に明るさは戻ったが！

篠山ナマステ会は、今年15周年を迎え、記念事業を実施する予定でした。4月にネパールで発生した大地震により一部事業を延期し、支援活動を展開してきました。

この度、これまでの支援の状況と現状を把握するため8月3日から8日までネパールを訪問しました。

カトマンズは一見平静を取り戻していましたが。車やバイクがあふれ活気を取り戻しています。壊れた世界遺産の建物の瓦礫はきれいに片付けられて周囲にフェンスが張られています。住居にも被害が見られますが、突っ張りをして生活をしています。

被害の大きかったマハデブスタン地区やシンドバルチヨーク地区のほとんどの家屋が被害を受けていて、仮設住宅での生活を余儀なくされています。

支援の状況とネパールの現状を報告します。

## ネパール大地震視察報告

### 一 第二次支援金について

死者の出た全ての家庭に支援が届く、死者の出た家庭の仮設住宅建設にあてられた。支援を受けた家庭数は死者の出た27家庭全てである。この内ガハテ村では2家庭である。

今回の訪問ではガハテ村とラトマティ村の各1軒を確認した。ガハテの被災家庭は、セティディビ小学校の近くで、本震の際れんが造りの家の下敷きになり60歳代の男性が亡くなった。近くに4家庭の共同で長屋のような仮設住宅が建設されていた。支援家庭の居住部分に支援金で購入された青色のトタンが使われていた。男性の息子にお悔やみを申し上げた。

ラトマティ村では80歳の義祖母を亡くした女性に話を聞くことができた。「地震(本震)が起こった際、自分は慌てて逃げ出した。玄関を出るかでないかの時に家が崩れた。祖母は2階にいて助からなかった。」と青いトタンの仮設住宅の前で話をしてくれた。女性が多い貧しい村



ガハテ村の仮設住宅

だが皆で助け合って生活していた。

SSSが用意したトタンはカライトタンであり他の仮設で使われていた通常のものよりも上質で耐久性があるものであった。2軒とも雨期のスコールを避けるのには十分な屋根を持つ仮設住宅であった。支援金は効果的に使われていると判断できた。



ラダ・クリシュナ校にて

### 二 第二次支援金について

第二次支援金は、教育環境支援に100万円を充てた。内訳は、セティディビ小学校には文房具等25万円、校舎補修費5万円、地震緊急支援費10万円、ラダ・クリシュナ校には文房具等45万円、地震緊急支援費15万円である。その内容を決定するため学校を視察した

#### ①ラダ・クリシュナ校

子どもたちの歓迎を受け、ラム校長に支援金の目録と西紀北小学校からの石鹸と今田中学校からの文房具を手渡す。その後学校とその周辺を視察した。

- ・児童生徒3人が地震で死亡。さらに家がなくなり7人が母の実家へ引っ越しをした。
- ・このため、現在の児童生徒数は10名減の146人である。
- ・図書室、コンピュータールームを含む6教室が使用できなくなった。
- ・下の広場に2部屋の臨時教室をつくった。
- ・地震後、子どもたちは落ち着かず、バイクが通っただけでも逃げだす子どもがいた。今は落ち着いてきている。
- ・図書を段ボールにしまい込んだままで子どもたちが自由に本を読めない。
- ・シンドバルチョークから通っていた先生は、地滑りで村全部がなくなり今はクンタに住んでいる。

地震後開校までの期間に政府により校舎の点検が行われ、使用を禁止する施設には「赤」、少し修理を施せば使用可能な施設には「オレンジ」、使用可能な施設には「緑」の表示シートが張られたが、同校の棟には「赤」の表示あった。建物を確認すると南側が大きく崩壊、全体的に亀裂が見られた。

臨時教室は、竹とトタンでつくられた極めて簡易なものであったが、風通しがよくネパールにふさわしい建て方だと感じた。

子どもたちは、大きな声を出して教科書を朗読するなどいきいきと勉強していた。子どもたちの中には鞆をもっていない子どもも多くみられた。

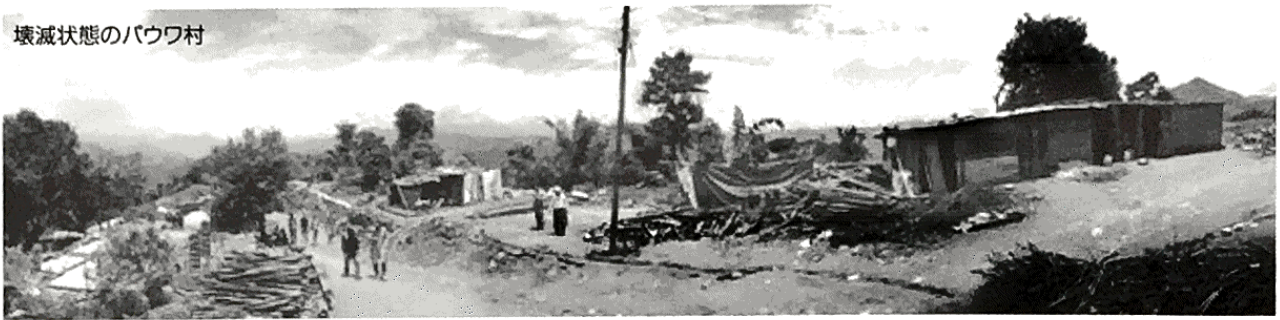
学校のあるパウワ村は壊滅状態で原形をとどめている民家を確認することはできなかった。人々はきわめて粗末な仮設住宅で生活していたが、ドイツのNGOの支援により恒久住宅(パーマネント・ハウス)の建設がはじまっていた。

②セティディビ小学校

子どもたちの歓迎を受け、サブコタ校長に支援金の目録と西紀北小学校からの石鹸を手渡す。

- ・地震があったのは土曜日だったので子どもたちは学校にいなかった。
- ・学校は頑丈だったので大きな被害はなかった。
- ・検査で校舎は使用可の「緑」判定をもらったが、トイレは使用を禁止するよう指示があった。
- ・子どもの家は被害を受けていて全員が仮設住宅で生活している。家は崩れかけていてノートや本などを取り入れない。
- ・制服がない事が問題である。
- ・母親の里に避難した子どもが12人、逆にカトマドゥから1人が疎開してきた。現在62人が在籍。
- ・5年生1名がメンタル的な問題で病院に入ったが今は復帰している。
- ・水源の水が少なくなった。

壊滅状態のパウワ村

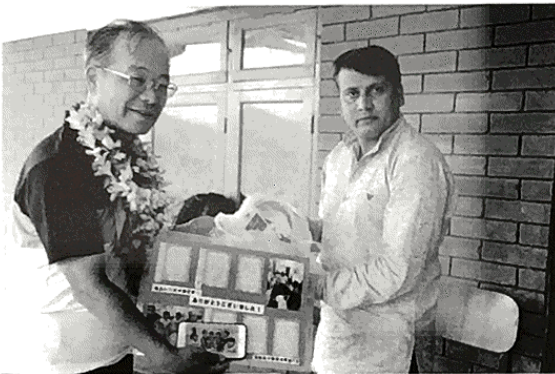


その後学校とその周辺を視察した。

校舎東側2階部分(職員室)の内外壁に亀裂がみられるが、柱の損傷は外見的に確認できない。校舎敷地東側(谷側)に地盤沈下が見られる。この影響か校舎と東側トイレの接合部のレンガ壁に亀裂を確認した。

北側児童用トイレは危険と判定されたとの説明があり1つを除いて施錠してあった。

制服を着ている子どもたちは少ない。身なりもきれいとは言いが、以前に届けた縄でなわとびや電車ごっこをして元気



セティディビ小学校にて

に遊んでいる。

校内はきれいに清掃してあった。

学校周辺の民家は比較的原形をとどめている。しかし、近づいて確認してみると全ての建物には大きく亀裂が入り生活感が全くない。住民はすべて仮設住宅生活を送っている。

三 ガハテとその周辺の村の課題について

→現時点では必要な緊急物資はない、

→雨季終了後の水不足が懸念される

食料の不足はないとのことである。わずかの生活用品で暮らしており最低限の生活のように見えたが、特に具体的な不足物資の話は出なかった。仮設住宅は行きわたっており、ブルーシートの必要性も低いと判断した。

電気は1日のうち何時間かはきている。滞在期間中は夜7時から翌日の概ね午前中は利用することができた(午後が停電)。

生活用水については水脈の変化や水量の減少(学校の水源も)があるとの説明があり、実際に水がほとんどでなくなった水汲み場も見られた。しかし、現在は雨季であり水の不足はなく、水問題が起こるかどうかは乾季を待って判断せざるを得ない。

山の上の村の課題として、停電が多いことで揚水ポンプが十分に稼働させられないこともある。

#### 四 シンドバルチヨーク郡の視察

##### 「巻き戻された時計」

荒れたメラウチヘランブロードを北西に約1時間走つてシンドバルチヨーク2番目の町メラムチの被害状況を視察する。道中の建物はすべて被害を受けており、所々で地滑りを見ることができた。報道のとおりシンドバルチヨークの被害は甚大である。

メラムチはシンドバルチヨークの西部の22VDCの中核になる町である。崖下の河川敷に開けた町で4〜5階建てのビルも多いが、ほとんどの建物に被害が出ている。鉄筋が入った建物にも



バザールの被害(メラムチ)

大きな被害が出ていて激しかった揺れを物語っている。特に昔からのバザールエリアは壊滅的で跡形もない。僅かに残った壁の解体が手作業で行われていた。また町の前の崖が広範囲に崩壊して土砂崩れで壊れた家も多くあった。この地区での死者は11人と聞いた。人々は瓦礫の上や大きく亀裂が入り危険と判定されたビルの1階で商売を続けていた。「次に地震が来て死んでも仕方が無い」と話す中年男性の笑顔が印象的だった。川

側の開けた土地に仮設住宅がまとまって作られており、夜はそちらで寝るとのこと。日常生活が戻っているように見えた。

次にバウニパティという地区に寄る。現在では農業も行っているが、もともとマジと呼ばれる漁業民族の住んでできた地区である。ピスタ氏がBPP(バウニパティ・プログラム)というアメリカのNGOの支援を受けて17年間行なった家族計画事業を実施した地区でもある。この町も殆どの家屋が倒壊している。石積みの家が多かったところが甚大な被害に繋がっている。中国語の入ったテント村やセイブ・ザ・チルドレンが行う子どもへの支援としての遊び場、テントや遊具の設置が見られた。

土や木や石でつくられた家の崩壊あとが雨季に伸びた草木に包まれ自然に同化して行く様が不思議に感じられた。人々は遅しく暮らしている。不便な生活のようだが少しだけ時計が巻き戻された様でバッサンさんが以前に話していた「20年前に戻りまし



倒壊した家は自然に戻りつつある。屋敷跡に育つトウモロコシとナス

前に戻りました。」の言葉が妙に納得できた。しかし、出稼ぎで若者のいない家も増えている。やり直しが効くのかは分からない。

#### 五 ガハテ村とその周辺の農業基盤の被害状況、及び現況

シンドバルチヨーク郡では地滑りで農地の被害もあったようだが、マハデプスタン周辺では小規模な畦畔の崩落も修復されて全ての水田、畑が活用されていた。水稲、トウモロコシの一部で作付けの遅れがみられたが、例年通りの農業が営まれていた。

ただ、多くの仮設住宅が畑に建てられていたのでその分の収穫減は予想される。逆に壊れた家の後にトウモロコシや野菜が植えられている様子も見られた。

課題となっているのは家畜の減少である。畜産指導員によると、ヤギは8カ月の肥育のものが約1万ルピーで販売でき農家の貴重な収入源となっている。ヤギの増頭が復興のカギとなるとのことで、SSSもその指導に力を入れ始めていた。



ビルの上から見たパタンの町、シートがかけられた屋根が見られる。

## 六 カトマンズ等ネパールの被害状況について

パタンのダルバール広場とその周辺の被害並びに復旧状況を視察した。

大きな被害の出たダルバール広場の入場規制はなくなっていたが、まだ入場料を徴収するまでには至っていない。崩れた瓦礫はきれいに片づけられ建造物の周囲にフェンスが張られていた。また、さらなる倒壊を防ぐためにあちらこちらに木製のつばりが設けられていた。

古い住居用の建物も被害が見られる。危険な建物には使用禁止のバツ印がつけてあったが、継続して生活されているようであった。

昼食で入ったレストランの店主の話によると、観光客が戻ってきていないので大変である、店舗の営業は元に戻ってきているので是非ネパール観光に来て欲しい、とのこと。確かに、復興状況を確認する観光もネパールの支援につながるだろう。

なお、カトマンズ市内の被害は地盤と建物の古さが関係しているようで、宿泊したペンションバサナ周辺ではほとんど被害が出ていなかった。

## 七 ネパール政府の地震対策

### ① 初動対応に高い評価

地震直後、軍と警察が行った救助、救援、支援物資の配布などの対応は適切であり、国民は双方に対して「見直した」との高い評価を与えている。

② 政府が打ち出している救済策  
確認した政府の救済策(2015・7末現在)は次のとおりである。

#### A 見舞金

○全壊世帯1・5万ルピー(トタン12枚相当分)

未実施

○家族を失くした世帯 世帯割10万ルピー

死者数割4万ルピー

未実施

#### B 緊急支援

被害度に応じて郡(district)を順位付け、仮設住宅、トイレ、薬、食糧を支援

政府↓郡開発委員会↓村開発委員会

●順位1位 シンドパルチョーク郡90万ルピーを割当

●順位2位 カブレ郡45万ルピーを割当

#### C 住宅再建補助制度

○住宅再建(パーマネントハウス⇨恒久住宅の建設)を支援する制度

未実施

○住宅再建補助金 1世帯当たり10万ルピー

通常15%の金利を2%に軽減するもの。貸付

金上限 地方150万ルピー(市部2500万

ルピー)

国民からは、「支援が遅い」、「トタンの搬送料が考慮されていない」との声が上がっている。

### ③ 国際支援の活用

ネパールは地震前から国際支援の受け入れに慣れている。支援金を含んだ政府予算を組む事が通例で郡開発委員会はNGOからの支援金もコントロールしている。これは、特定地区に支援が集中することを防ぎ、地域の均衡ある発展を実現するためでもある。

ラダ・クリシナ校のあるパウワ村ではドイツのNGOが順調に住宅再建を行っている。建設されているのは屋根を除く部分のみである。屋根部分は政府からの支援があるので事業連携により住宅を再建しようとするものである。この再建事業も行政(郡)への届けを行うことで連携が生まれ、スムーズに進んでいるものと思われる。(ネパール政府は、届け出なしに支援金、支援物資の配布を禁止している。)

また、クンタ村には課題のある妊婦を保護し栄養改善、妊産婦教育を行っていた。ドナー(資金提供)はユニセフである。村々を回るヘルスワーカーが妊婦を保護してくる。2日〜2か月過ぎとして健康状態が戻ると村に帰っていく。これまでに約170人がサービスを受けたという。  
このように政府は国際支援を積極的に活用している。

ネパール大地震に多くの市民や団体等から支援をいただきました。その状況を報告します

●今田中学校生徒会の取り組み  
今田中学校生徒会より

ネパールが地震で、とても大きな被害を受けていると聞き、この今田中学校でも何かできないかと生徒会を中心に考えました。

最初は募金がいりではないかという話になり、募金活動を行いました。文房具なども良いと聞き全校生徒に広く呼びかけて、文房具の提供もお願いしました。また、生徒玄関にはネパール地震の写真や情報を掲示して活動を行ったところ、募金やたくさんの方の文房具が集まり、うれしかったです。

距離ではとても離れていても、このような活動で世界の人たちとつながれることや、支え合うことの大切さを学ぶことが出来ました。

生徒のみんなから集めた募金や文房具が少しでも現地の子ども達にとって役に立っている、と思っています。すし、今田中学



ラダ・クリシュナ校で文房具を渡す

校生みんなの気持ちでネパールの人々を支える力になってくれることを願っています。  
また、集まった募金や文房具を現地に届けて頂いた、ナマステ会のみなさんにも感謝しています。

●篠山鳳鳴高等学校  
インターアクト部の取り組み  
顧問 有田きみ

篠山鳳鳴高等学校インターアクト部では、文化祭などの学校行事で、生徒や保護者の方に協力をお願いして募金活動をしています。募金先は、毎年4月のミーティングで決めることにしています。例年、社会福祉協議会の善意銀行運営事業(指定預託)の中から、「自分たちが活動して集まった募金をどう使うのが良いか」を生徒自身が考えられるようにしています。

今年度は、5月と6月の2回募金活動を実施することとし、募金先も決めていました。しかし、4月25日に発生したネパール大地震を受け、篠山ナマステ会さんが募金を呼び掛けておられる事を新聞で見た生徒たちは、「募金先を変えたい」と言ってきました。募金実施予定日の直前ではありましたが、呼びかけ用のパネルなどを急ぎ作成し、5月の募金活動当日には1万6395円を集めることができました。また、6月の文化祭での募金活動では、多くの保護者の方からもご協力いただき、2万1059円が集まりました。集めた募金が有効に預けすることができました。

活用されていることを知らせていただき、生徒たちは募金先変更の決断をしてよかったですと話します。

自然災害の発生等により支援を必要とする人が、日本中・世界中に常に存在しているという事は悲しい事実ですが、その都度自分たちにできることを自分たちで考え、活動していきたいと思っています。



募金活動をするインターアクト部

私達の支援に対してネパールから感謝のメールが届きました。

親愛なる篠山ナマステ会の皆様へ

SSS代表 バラト・ビスタ

篠山ナマステ会と日本国民の皆様にはナマステのご挨拶を申し上げます。

篠山ナマステ会からはマハデブスタン地区のセティディビ小学校、ラダ・クリシュナ小中学校、

ガハテ村民、SSS等対して、15年間にもわたって親切な様々なご支援を頂戴しており、このようなご支援に心からの感謝を申し上げたいと思いません。私たちの関係がこれからも続いていくことを願ひ、そのための努力を惜しまないことをお約束致します。

小生と家族、セティディビ小及びラダ・クリシユナ小中校、そしてSSSの家族たちは皆元気で勉強に、仕事に励んでおります。

私たちも地震の影響を受けましたが、SSSは地震で被災した人々のために活動を続けてきました。本会のビシユニユ・マニ・ネパールがAHI(アジア保健研修所)で研修を受けるため10月14日まで日本に滞在しています。彼が意義ある研修を積んでくれることを願っております。

4月25日のマグニチュード7.9、5月12日の6.7の地震、それにマグニチュード4以上の数百回の余震がネパールの多くの地域に被害をもたらしました。私たちの国は今回の地震のために非常に多くのものを失いました。

- ・ 死者 8,969人
- ・ 負傷者 22,321人
- ・ 政府機関の損壊 2,688事務所
- ・ 全壊した家屋 62,592戸

SSSが活動しているカブレ郡とシンドゥバルチヨク郡は被災地域のなかで最も大きな影響を受けました。シンドゥバルチヨク郡だけで全死者の48%以上が出ています。SSSは地震後3ヶ月間

カブレ郡とシンドゥバルチヨク郡で緊急の移動キャンプを実施し、これらの地域に様々な支援を提供してきました。

土と石で出来た家のほとんどは損壊し、ガハテ村や隣村では何も残りませんでした。篠山ナマステ会は被災した人々に様々な支援を提供してくれました。それでSSSは、第一次支援として、カラー・トタン(腐食に強い)、針金、釘等のセツト、その他の物資を死者の出た27世帯に提供しました。

それから、(第二次支援として)ラダ・クリシユナ小中及びセティディビ小の207名の児童生徒に文房具、制服、学校用カバン、辞書などをおくりました。彼らは勉強が出来るようになって、篠山ナマステ会に感謝の気持ちを持っています。

また、PHD協会、AHI、個々の友人たち等の支援によって、SSSはガハテ村やマハデプスタン地区、近隣のエリア、そして遠く離れたシンドゥバルチヨク郡等の被災地域に様々な緊急支援物資を届けました。

篠山ナマステ会の支援によって非常に多くの人たちが助かっており、感謝の気持ちを伝えていきます。重ねてお礼を申し上げますと共に、私たちの関係が末永く継続していくことを願っております。有難うございました。

### 篠山ナマステ会の皆様へ

ラダ・クリシユナ校児童保護者  
カルパナ・ボガティ

私の名はカルパナ・ボガティです。ネパール・カブレ郡のサピンで1990年に生まれました。結婚前、私は多くの知識を身につけ、高い教育を受ける夢を持っていました。残念なことに、私の家族は私に結婚するよう強く迫って、私は17歳の時、カブレ郡マハデプスタン地区のケダール・ボガティと結婚しました。

その頃、私はどうやって家計を切り盛りするか、夫や家族をどうやって手助けするか等について何も考えを持っていませんでした。結婚1年後、最初の子ども・娘を出産しました。

教育を受けていず、十分な情報もなく、家族計画もないままに、私は第1子出産後6ヶ月で再び妊娠し、第1子誕生後15ヶ月で2番目の子どもを出産しました。

私の家族は増えていきましたが、適切な家計収入はありませんでした。私の家族はうまくいかなくなり、とうとう夫は第2子が生まれた五ヶ月後に仕事をしにUAE(アラブ首長国連邦)へ行きました。

私は明るい将来に大変多くの夢を持っていました。時間の経過と共に、私は家をうまく切り盛りできるようになり、子どももだんだんに成長しました。しかし、2年後、不運

なことに夫がUAEで交通事故のために死んでしまったことを聞きました。

これといった今後の見通しもなく、私は2人の子どもを育てました。この子どもたちは大変いい子で正直でした。私たちは自分の小さな家と少しばかりの畑とをもって、日々の生活を始めたのです。私の2人の子どもたちは学校へ行き、娘は4年生、息子は2年生で、娘は私の息子の面倒を見てくれました。

4月25日土曜日の昼食後、12時頃家の中で私たちは休憩していました。ちょうどその時、大きな地震が私たちを襲いました。私と8歳の娘は外に出ることが出来ましたが、7歳の息子は家から逃げる事が出来ませんでした。30秒で全ての壁土、石材、木材が崩れ落ち、家は完全に倒壊しました。私の息子はどこにも見つけることが出来ませんでした。10分たったとき、崩れた家の内側から「ママ、助けて」という声が聞こえてきました。私はあらゆることをしましたがうまくいきませんでした。1時間ほどの間、息子は助けを求めていました。2時間後、数人の村人が駆けつけて崩れた家から息子を取り出してくれましたが、その時は既に遅く、息子は死んでいました。

これまで私の夢は何も叶いませんでした。今、私たちは自分の家を失い、援助の手も、何らの支援もありません。そんな中で、篠山ナマステ会とSSSの支援によって、1年分の文房具、辞書、

定規等セット、カバン、通学靴やその他のものを私の娘やラタ・クリシユナ小中学校の全ての児童生徒に支援いただきました。今、私の娘はラタクリシユナ校の4年生で学んでいます。



カルナ・ボガティと母カルバナ・ボガティ、及び篠山ナマステ会とSSSによって提供された緊急住宅

私は篠山ナマステ会とSSSにお礼を申し上げます。私には感謝の気持ちがあります。皆様のご支援で私の娘は引き続き教育を受けられるようになり、大変意義深いものです。最初、SSSは緊急住宅用のカラートンセットを提供してくれました。2回目には彼らは私の娘やラタクリシユナの子どもたちに文房具等を支援してくれました。私は皆様のご支援を決して忘れません、娘は将来において成功することを心から確信しております。

篠山ナマステ会、そしてSSSの皆様有難うございました。

### 篠山ナマステ会へのお礼

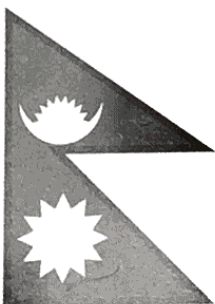
セ小児童保護者 シタ・ラマ

私の名前はシタ・ラマです。私はマデプスタン地区六のガハテ村に住んでいます。私の息子（プラサンタ・ラマ）はセティディビ小中学校の1学年で学んでいます。今、私たちには家も台所もありません。家も食糧も何もかもが地震でなくなりました。地震から逃れることは何もできませんでした。

篠山ナマステ会にお礼を申し上げます。皆さんはSSSを通じて、私の息子やセ小の児童たちのために、制服、文房具、カバン、その他の多くの支援物資を届けて下さいました。私たち保護者は本当に有り難く、皆様に感謝申し上げます。

今年には私にとって非常に困難な年です。皆様は息子のために支援をいただけなかったら、お金がなくて私はこれらの学用品を工面できず、子どもの教育は続けられなかったでしょう。皆様からのご支援は私と息子にとって本当に大切に価値あるものでした。私はとてもうれしくて、篠山ナマステ会の皆様とSSSに心からのお礼を申し上げます。

有難うございました



# 温かいご支援に感謝します。

## 支援金総額は

# 2,167,311円 (2015年8月末現在) となりました。

## ネパール地震救援募金のお礼

この度のネパール大地震に対して本会から救援募金をお願い申し上げましたところ、市内外の個人、諸団体、企業、学校等から8月末現在で200万円を超えるご厚志、また救援物資等をお寄せ戴きました。

このように多くのご浄財等をお寄せ戴いた背景には、個人の尊いご芳志はもとより、諸団体や企業、学校等に於いて積極的にネパール地震の惨状を訴えられ、また本会に救援募金の趣旨説明の場を提供し、募金箱設置にもご配慮下さるなど、組織の力を上げてご支援を戴いたことがあります。

また個人の方々それぞれの立場で知己、ご友人、関わりのある諸組織等に募金を呼びかけて、支援の輪を積極的に

広げて戴いたことも大きな力になっていきます。

そして、篠山市も市役所ロビーへの募金箱設置にご協力戴くなど、本会のネパール救援活動に深いご理解とご支援を頂戴致しました。

お寄せ戴いたご浄財等は、現地NGOのSSSと協議し、また現地を視察してそのニーズを把握して、三回に分けて主としてカブレ郡マハデプスタン地区の緊急復旧支援に充てさせて戴きました。詳細については今号の「ガハテ村通信」で報告させて戴いている通りです。

ここに、救援募金にご協力ご支援を戴いた全ての方々に心からのお礼を申し上げます。

## 今後の支援

第三次支援は、「マハデプスタン地区復興資金」として50万円をSSSに委託することにし、9月上旬に送金しました。現地の復興状況を見ながら支援金活用計画を立てることにあります。その際、篠山ナマステ会と綿密に打ち合わせを行う事としています。

なお、地震からの復興はこれからであり、特に壊滅した家屋から、恒久住宅への再建支援にSSSが取り組みつつあります。

本会も継続してこのSSSの活動を支援していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## ネパール大地震支援活動のあゆみ

- 4月25日 ネパールで大地震発生  
 4月27日 臨時幹事会  
 記念行事の一部延期を決定  
 4月29日 SSS事務所と緊急電話連絡  
 招聘事業の延期を伝え被災状況報告を要請する  
 5月 1日 市役所に「ネパール地震募金箱」設置について  
 保健福祉部と話し合い  
 広報紙「ガハテ村通信No.28」にて全ナマステ会会員、  
 市内外関係者に「ネパール救援募金」の協力依頼  
 5月 6日 丹南ライオンズクラブ  
 「ささやま福祉・ボランティア祭り」で本会の活動報告及び  
 緊急支援を訴える。写真展示も実施  
 5月 7日 市の協力を得て市役所ロビーに募金箱設置  
 5月12日 ネパールで強い余震発生  
 臨時幹事会  
 緊急支援の方法について協議  
 篠山鳳鳴高校インターアクト部募金活動  
 5月15日 市内退職小中校長会でネパール地震支援募金呼びかけ  
 兵教組多紀支部へ支援募金呼びかけ  
 5月16日 総会 ネパール大震災報告  
 5月18日 川西市教職員組合へ支援募金協力依頼  
 5月29日 柏原人権擁護委員会総会にて支援募金協力依頼  
 5月30日 彩華スポーツより募金受領 ●  
 6月 1日 定例幹事会  
 第1次緊急支援金50万円送金を決定(6/2送金)  
 6月 2日 各新聞社にネパール地震支援について新聞報道を依頼  
 6月 8日 岩崎電機(株)より募金受領 ●  
 6月22日 篠山鳳鳴高校より募金受領  
 6月30日 西紀北小学校出前講座で地震の状況を伝える  
 7月 3日 篠山中学校生徒会より募金受領  
 7月 6日 定例幹事会  
 第2次緊急支援金100万円送金及び幹事の  
 視察派遣を決定(7/27送金)  
 7月21日 西紀北小学校4年生より支援の石けん受領  
 7月22日 今田中学校生徒会より募金及び文房具受領 ●  
 7月31日 篠山市役所ロビー募金箱回収  
 8月 3日 ネパール訪問  
 8日  
 8月17日 臨時幹事会  
 地震視察報告と第3次支援について  
 8月29日 ささやま教育フェスティバルにて写真報告 ●  
 9月 8日 第三次支援金50万円を送金  
 9月18日 西脇市人権教育研修会で出前講座  
 ネパールカレー会食及び篠山ナマステ会の活動と  
 ネパール大地震支援について報告  
 10月 6日 西紀北小学校で出前講座(予定)  
 ネパールへ石けん支援の様子と地震の報告



この特集号は、公益法人兵庫県民間国際交流助成事業の補助金を受けて発行しました。